

3 中部国際空港の二本目滑走路を始めとする機能強化の早期実現について

(国土交通省)

【内容】

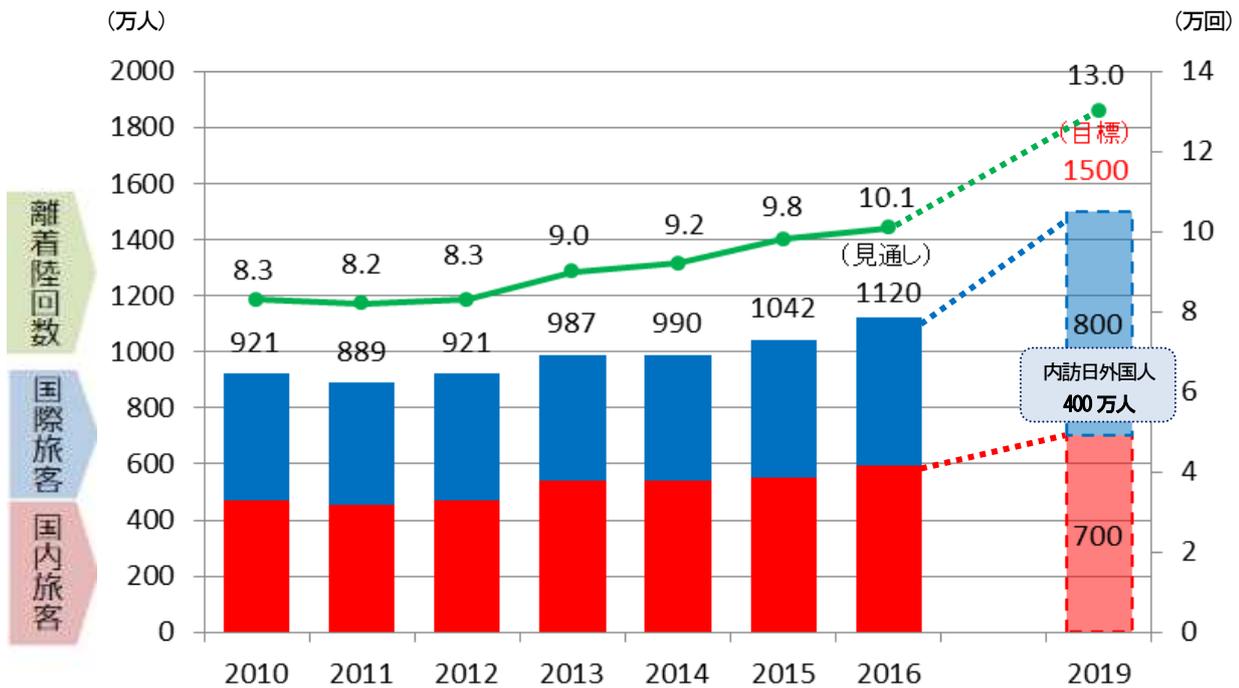
- (1) 地域と連携して、中部国際空港の機能強化に必要な調査検討に取り組むこと。
- (2) ビジット・ジャパン地方連携事業等インバウンド旅客の増加に向けた施策を始めとする航空需要拡大の取組を一層推進すること。
- (3) 急増する訪日外国人の受入に適切に対応するため、LCC向けターミナルの整備にあわせてCIQ体制の充実・強化に取り組むこと。
- (4) 空港利用者の利便性向上及び、さらなる増加が見込まれるFIT(個人の外国人旅行者)にしっかり対応するため、引き続き、道路・鉄道等の空港と主要都市や主要観光地とのアクセスの充実に取り組むこと。

(背景)

- 中部国際空港は、2005年の開港以来13年目を迎え、国際拠点空港として我が国の航空輸送の発展の一翼を担い、国内外の人・モノの交流に大きく貢献してきた。近年、航空旅客数・離着陸回数は着実に増加しており、昨年は航空路線数、便数も開港以来最大となった。
こうした中、中部空港会社では、2019年度までに、訪日外国人数400万人を含む航空旅客数1,500万人・国際航空貨物取扱量24万トン等を目指している。
今後、LCCの拠点化も予定され、航空旅客数・離着陸回数は数年度以内にも過去最高の水準に並ぶ勢いとなっており、これに向け、2019年度の供用を目指し、新ターミナルビルや駐機場の整備を進めている。
- 国においては、訪日外国人旅行者数を、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年に4,000万人、2030年に6,000万人という目標を掲げている。地域としても、2016年の伊勢志摩サミット開催効果を活かす等、この達成に向け、国とも連携・協力しながら、航空需要の拡大・航空ネットワークの充実にに向けたエアポートセールスや昇龍道プロジェクトを推進している。さらには、「第20回アジア競技大会」や「ラグビーワールドカップ2019」に続く各種国際スポーツ大会の招致等にも取り組んでいる。
また、2018年夏のオープンを目指して、中部空港会社によりボーイング787初号機を中心とした複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」が整備されることに加え、2019年秋までに、我が国初となる空港に隣接した大規模展示場の整備が本県により進められることにより、さらなる利用者の増加等、大きな相乗効果が期待される。
- さらに、リニア中央新幹線の全線開通による巨大都市圏の誕生という大きなインパクトの活用や国の中枢機能の分担等を確実に担うためには、我が国の国際ゲートウェイの一翼を担う中部国際空港の二本目滑走路(完全24時間化)を始めとする機能強化の早期実現が不可欠である。
一方、空港運用面においては、滑走路が1本であることから、滑走路等のメンテナンス時間の確保が困難となることに加え、大規模補修の時期も迫り、ピーク時間帯を含め受入制約の発生が現実味を帯びてきた。
- あわせて、新たなアクセスとなる西知多道路の整備や知多半島道路を始めとする有料道路コンセッションなど、アクセスの充実にに向けた取組が着実に進められているが、さらなる広域的なアクセスの充実に取り組む必要がある。

(参 考)

【中部国際空港の旅客数・離着陸回数の年度別推移】



中部国際空港株式会社作成資料を基に作成

【中部国際空港の国際航空貨物取扱量の年度別推移】



中部国際空港株式会社作成資料を基に作成

【航空需要拡大に向けた地域の取組状況】

愛知県	訪日外客誘致に向けたプロモーションと受入態勢を強化 海外でエアポートセールス等を実施 重点路線維持・拡充のためアウトバウンド需要の推進対策を実施
中部国際空港 利用促進協議会	旅行商品造成を目的とした海外旅行事業者等の招聘事業など、インバウンド需要の 拡大事業を実施 広域観光周遊ルート形成促進など、受入環境整備事業を実施 輸出入貨物を増やした荷主・フォワーダーへの支援やトラック共同輸送事業を実施 エアラインのPR支援や就航先と協力したプロモーションを実施 空港の二次交通充実に向けたバス路線に対する支援等を実施

等